

福島県立 平商業高等学校			
〒 970-8016 福島県いわき市平中塩字一水口 37-1 電話 0246-23-2628			
活動団体	生徒会		
主な活動時間	休み時間や放課後	活動人数	750 人
グランプリ大会 発表生徒	吉田純平、菅波梨瑚	担当教諭	高野賢司

福島から、未来の地球のためにできること。

【目標・展望】

平成 20 年度より、生徒会を中心としたエコロジー活動に取り組んでいます。目標は、学校の SR（社会的責任）を果たしながら、地元福島県いわき市の地域復興を応援することです。

【活動内容】

○具体的な活動状況

・ごみの分別

燃やせる、アルミ缶（プルタブも含む）、スチール缶、紙パック、紙類、ペットボトル（本体、キャップ、ラベル）：各教室に回収用の箱を設置しました。（昼食注文の弁当と使用済み割り箸は、昼食終了後に回収しています）

・アルミ缶・プルタブ回収（平成 14 年度より）

毎週一回洗浄後にプレスして保管しています。一定量になったら、地元ボランティア団体【サンボラ会】に回収をお願いしています。

・ペットボトルキャップ回収（平成 20 年度より）

発展途上国の子どもたちへのワクチン代にする活動に参加しています。週に一回教室より回収し、一定量になったら企業に回収をお願いしています。

・使用済み割りばし回収（平成 20 年度より）

昼食の弁当で使用した割り箸を分別回収しています。週に一回、地元企業に回収をお願いしています。回収後は、ペレットストーブの燃料になります。

・使用済みインクトナー・カートリッジ回収（平成 21 年度より）

生徒会活動や授業で発生した、プリンターのカートリッジやトナーを回収し、一定量になったら製造元に送付し、ベルマークに交換しています。

・ベルマーク回収（平成 21 年度より）

集めたベルマークは、年一回、協会に送付して点数化しています。集まった点数は、海外で植栽活動を行っている団体に寄付しています。

・ラベルのプール（平成 22 年度より）

集めたペットボトルのラベルをリユースしたものです（落ち葉のプールをリメイクしました）。被災した「道の駅よつくら港」の仮設テント内で、子供たちの遊び場として実施しました。

○商品開発

・地域 6 次化商品【地元の食材を地元で加工して地元で販売すること】の開発から、販売を行っています。（平成 20 年度より）

・地域 6 次化商品の開発中に、放射能測定を行いました。（平成 24 年度より）

・地元の食材を使った商品を開発し、地元で販売しています。今年度はいわき市のイチゴを使った「どら焼き」などを開発し、販売しました。放射能測定も自分たちで行いました。同様に、いわき市で水揚げされたカツオを使った「かりんとう」も開発、放射能測定を行い、販売しています。

○活動の独自性

・使用済み割りばしの回収やベルマーク回収、ペットボトルのラベルをリユースした【ラベルのプール】は本校独自です。また、商業高校として地域 6 次化商品の開発を行いながら、フードマイレージや地産地消について考えています。

○地域との連携状況

・震災により被災した「道の駅よつくら港」の仮設テント内にて、子供たちが室内で遊びながら学習できるようにラベルのプールを実施しました。

・ラベルのプールは、平成 22 年度に先輩方が企画し、

地元のイベント（いわき産業祭）や地元スーパー（スカイストア）にて実施しました。震災後は、屋外で遊べない子供たち向けに企画しました。



・地域清掃へ参加しています。

学校周辺（年2回）やJRいわき駅周辺（年1回）の清掃に参加しています。ゴミの分別をしながら回収を行います。

【成果・実績】

・アルミ缶、プラタブ回収の実績

地元のボランティア団体【サンボラ会】に収集をお願いし、車いすに交換していただき、施設への寄贈を行っています。今後も継続していきたいと思ひます。

・ベルマーク回収は、授業で印刷することが多いので、海外の植栽活動をしている団体に寄付することが温暖化防止につながると思ひ活動を始めました。震災後に、ベルマークを寄付した団体を通じて、海外の方々からの励ましの絵やメッセージを頂きました。今は、人と人をつなげる活動だと思ひています。

・地域6次化商品の実績

いわき市で水揚げされたカツオを使った「かりんとう」は、2,180個（平成22年8月～平成24年8月）販売しました。震災後は一時中断し、宮城県産のカツオに切り

替えて対応した時期もありました。震災で被災した道の駅よつくら港にて販売しています。今年度は、県外の方々（愛知・神奈川・静岡・広島県）からも注文を頂くようになり、福島県の食材の安全性をPRできてきたと思ひます。

いわき市で収穫された「イチゴ」を使った「どら焼き」や「焼きドーナツ」は、合わせて741個販売（平成24年4月～8月）しました。震災で被災した道の駅よつくら港にて販売していました。今年度は、県外の方々（神奈川県など）からも注文を頂くようになり、福島県の食材の安全性をPRできてきたと思ひます。イチゴについては、観光いちご園が風評被害により客足が鈍り、イチゴを廃棄処分していた時期がありました。そのイチゴを実際に摘みに行き、お菓子に活用しました。食べ物も消費されなければゴミになってしまう。ごみを減らすことも必要だと感じました。

・ラベルのプールの成果

道の駅よつくら港にて4月29・30日、6月9日、7月15日、11月3・4日の6日間実施しました。ラベルのプールに参加した子供たちは、大きな声ではしゃぎながら、喜んで遊んでいました。中には、ペットボトルのラベルにあるベルマークを集める子供の姿も見られました。当初は、ベルマークを切り取ったラベルを使っていましたが、現在は、切り取らないでいます。震災後は、水道水の代わりにペットボトルの水を飲む家庭も増えたので、このような活動が、子供たちのごみの分別をするきっかけになればと願っています。

《グランプリ大会で受けた質問》

- ◎地域の清掃に参加する人は、どういう人ですか。生徒全員、それとも有志？ また、どのくらいの頻度でやっているのでしょうか。
- ◎イチゴの焼き菓子を作っているお店はどうやって見つけたのですか。
- ◎風評被害による影響が大きいのですが、あなたがたはどうやって説得するのですか。
- ◎皆さんはこういう取り組みのリーダーとして、熱心な人も興味や関心を持たない人もいる中で、学校全体をまとめていくためにどういった工夫をしていますか。

《出場者の声》

- ◎学校でのエコ活動を振り返ることで、たくさんのことを見直すことができました。大会に参加してよかったです。（菅波梨瑚・2年）
- ◎生徒会長の頑張りがあって、全国で賞を取る事が出来たと思ひます。これからもエコ活動を続けてください。（吉田純平・3年）
- ◎平成25年度に創立百周年を迎えるあたって、全国大会で素晴らしい賞を受賞できたことを嬉しく思ひます。（高野賢司・教員）